

# 少女マンガが女性たちの生き方に与えた影響

樋口 花音

これまで、マンガ文化は非常に長く続いており、年齢や世代を問わず多くの人々に親しまれてきた。そこで、マンガが人々に与えた影響を明らかにしたいと考え、中でも人気作品を数多く含むジャンルのひとつである「少女マンガ」に注目し、主な読者層である女性たちの生き方にどのような影響を与えたのかということについて研究を進めた。

特に、第三波フェミニズムが盛んであった 1990 年代から 2000 年代の少女マンガは、女性たちに大きな影響を与えたのではないかと考え、人気作品を多く生み出している作家のひとりである矢沢あい作品に着目しながら、当時の少女マンガ作品の特徴と社会状況を整理し考察を進めた。

その結果、1990 年代の少女マンガ作品は全体として「かわいらしさ」が強調されており、キャラクターから人間らしさ、親しみやすさを感じやすく、より作品に対する愛情、作品を好む気持ちが生まれやすくなっていたと考えた。

また、矢沢あい作品である『NANA』と、矢沢あいへのインタビュー記事を参照し、第三波フェミニズムとの関連を考察した結果、当時価値観の異なるさまざまな人々が自分自身の生き方について考え、個性を打ち出したと考えた。

また、人気作品を多く生み出している矢沢あい自身が、自身の作品を通して読者に物事をさまざまな角度から見てほしいという考えを持っていたことが読み取れた。

さらに、当時の女性たちにとって『NANA』のストーリーは、働き、主体性を持って生きる女性としての人生を描いたものであり、それを描く矢沢あい自身の生き方そのものも、それらを象徴し心打たれるものであったと考えた。

また、韓国における『NANA』の読者にも注目した。その結果、韓国の『NANA』の読者は 2 人の主人公に自分自身を重ね合わせつつ、自分とは異なる生き方に憧れを感じるということが読み取れた。

これらのことから、描写によりキャラクターから人間らしさを感じやすくなり、作品を好む気持ちを強めたことが女性たちの生き方に与えた影響のひとつだと考えた。

また、当時の社会に広まった作品に反映された「リアルな部分に自分自身を重ね合わせつつ自分と異なる生き方への憧れも同時に感じられるような『主体性を持った女性』の生き方」が読者の心を打ち、多くの女性たちが求めるようになったということが、当時の少女マンガが女性たちの生き方に与えた影響だという結論に至った。